

张中行

作品集

(第三卷)

禅外说禅 佛教与中国文学

粥飯隨緣度古稀旅囊犹貯旧緇衣三

冬宛委嘗尋道百步穿窬未見聲

磬聲風高怀硯老涿梁夢斷為魚

歸賞心欲共冰尽回首應怜四九

非朔風吹帽吹華顛漫與黃花

忆盛年隨月自游金雞報愛

蓬人在木蘭船湖山驚雨常

為伴紙墨新情劇可伶屎溺

乾元參欲透玄功尚闕祖師禪

幾度扶風倚絳紗倦游揚墨不成象

襟心一覽虛生夢長物空留魚子布

吟風秦樓誰注子成禽晉帖自塗鴉思

鯨采菊尋常事取次為門學神爪粥

飯隨緣度古稀旅囊犹貯旧緇衣三冬宛

張中行作品集

(京)新登字030号

图书在版编目 (CIP) 数据

张中行作品集 第三卷: 禅外说禅, 佛教与中国文学 / 张中行著. - 北京: 中国社会科学出版社, 1995.6

ISBN 7-5004-1604-0

I. 张… II. 张… III. 张中行-文集 IV. C52

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (94) 第13121号

中国社会科学出版社出版发行

(北京鼓楼西大街甲158号)

北京外文印刷厂印刷 新华书店经销

1995年6月第1版 1995年6月第1次印刷

开本: 850×1168毫米1/32 印张: 14.125 插页: 6

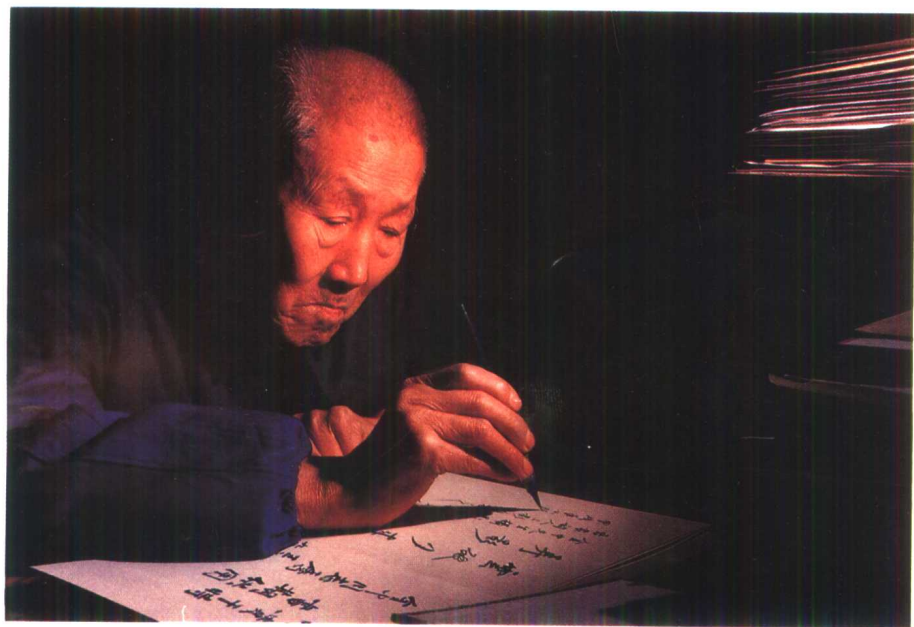
字数: 343千字 印数: 1—11000册

定价: 16.00元

本 卷 说 明

本卷收入张中行先生的著作两部：《禅外说禅》、《佛教与中国文学》。《禅外说禅》曾由黑龙江人民出版社1991年3月出版，1992年2月和1994年2月两次重印；《佛教与中国文学》曾由安徽教育出版社1984年9月出版。

2862/04



禅外说禅

第一章 弁言

1. 川缘起(-)

想起我与禅的关系，说来话长。最早大概是青少年时期，看《红楼梦》，第九十四回写黛玉和宝玉用禅语问答：

黛玉乘机发问，说道：“我便问你一句话，你如何回答？”宝玉歪着腿，合着手，闭着眼，撇着嘴道：“讲来。”黛玉道：“宝姐姐和你好，你怎么样？宝姐姐不和你好，你怎么样？宝姐姐前儿和你好，如今不和你好，你怎么样？今儿和你好，后来不和你好，你怎么样？你和他好，他偏不和你好，你怎么样？你不和他好，他偏要和你好，你怎么样？”宝玉呆了半晌，忽然大笑道：“任凭弱水三千，我只取一瓢饮。”黛玉道：“瓢之漂水，奈何？”宝玉道：“非瓢漂水，水自流，瓢自漂耳。”黛玉道：“水止珠沉，奈何？”宝玉道：“禅心已作沾泥絮，莫向春风舞鹁鸪。”黛玉道：“禅门第一戒是不打诳语。”宝玉道：“有如三宝。”

话外辨正者，象是句上有言外之意，觉得有意思。黛玉觉得巧，因为化^愚为^慧，使难说的变得可以说。

过了些年，兴趣早已离开^得编的故事而转到实在的人生。自己想，不明白，~~也~~^{于是}求外援。希望能够“朝闻道”；^{思索}（^{艰难很多}）

目 录

禅 外 说 禅

第一章 弁言	(3)
1.1.1 缘起 (一)	(3)
1.1.2 缘起 (二)	(7)
1.2 禅内禅外	(8)
1.2.1 在外有自由	(8)
1.2.2 著史只能在外	(9)
1.2.3 易解的路	(10)
1.3 史料问题	(10)
1.4 也是揣篇	(12)
第二章 观照人生	(15)
2.1 宇宙和人生	(15)
2.2 人生问题	(16)
2.2.1 目的难证	(17)
2.2.2 义务和善念	(18)
2.2.3 快乐与众乐主义	(19)
2.2.4 欲的满足	(20)
2.2.5 粗略认识	(22)
2.3 人生之道	(23)
2.3.1 勤勉的路	(23)

2.3.2	倦怠的路	(25)
2.3.3	以逆为顺	(27)
2.3.4	道的同异	(28)
第三章	佛法通义	(30)
3.1	章题释义	(30)
3.2.1	内容过多	(30)
3.2.2	内容过专	(31)
3.2.3	内容过繁	(33)
3.3	教外说	(34)
3.4	佛法要点	(35)
3.4.1	生死事大	(35)
3.4.2	人生是苦	(36)
3.4.3	四圣谛	(37)
3.4.4	无常	(41)
3.4.5	五蕴皆空	(42)
3.4.6	万法唯识	(44)
3.4.7	十二因缘	(44)
3.4.8	戒定慧	(46)
3.4.9	解脱	(50)
3.4.10	慈悲喜舍	(51)
3.4.11	神通和福报	(52)
3.4.12	门外管窥	(54)
第四章	中土佛教	(56)
4.1	源流说略	(56)
4.2	前期佛教	(57)
4.2.1	汉	(57)
4.2.2	三国两晋	(59)
4.3	中期佛教	(60)

4.3.1	南北朝 (一)	(60)
4.3.2	南北朝 (二)	(62)
4.3.3	隋	(65)
4.3.4	唐	(67)
4.4	后期佛教	(69)
4.4.1	五代十国	(69)
4.4.2	宋 (附说辽金)	(70)
4.4.3	元	(72)
4.4.4	明	(73)
4.4.5	清	(74)
4.5	宗派	(76)
4.5.1	三论宗	(77)
4.5.2	法相宗	(78)
4.5.3	律宗	(79)
4.5.4	净土宗	(80)
4.5.5	密宗	(82)
4.5.6	天台宗	(83)
4.5.7	华严宗	(85)
4.6	影响	(86)
4.6.1	生活方面	(86)
4.6.2	学术方面	(87)
4.6.3	文学艺术方面	(88)
4.7	旁观语	(89)
第五章	禅宗史略	(94)
5.1.1	禅的泛义	(94)
5.1.2	早期禅法	(95)
5.1.3	北地禅法	(96)
5.2	立宗因缘	(97)

5.3	渊源传说·····	(104)
5.3.1	灵山一会·····	(104)
5.3.2	西天二十八祖·····	(105)
5.4	中土统系·····	(107)
5.4.1	初祖菩提达磨·····	(107)
5.4.2	楞伽宗·····	(109)
5.4.3	二祖慧可·····	(112)
5.4.4	三祖僧璨·····	(114)
5.4.5	四祖道信·····	(115)
5.4.6	五祖弘忍·····	(116)
5.4.7	旁出法嗣·····	(117)
5.5	南宗顿教·····	(120)
5.5.1	六祖慧能·····	(120)
5.5.2	六祖坛经·····	(126)
5.5.3	高足举要·····	(127)
5.5.4	下传弟子举要·····	(133)
5.6	立宗分派·····	(143)
5.6.1	沩仰宗·····	(145)
5.6.2	临济宗·····	(146)
5.6.3	曹洞宗·····	(147)
5.6.4	云门宗·····	(149)
5.6.5	法眼宗·····	(150)
5.6.6	杨歧派·····	(151)
5.6.7	黄龙派·····	(152)
5.7	后期情况·····	(153)
第六章	禅悟的所求·····	(155)
6.1	难言也·····	(155)
6.2.1	门外寻源·····	(159)

6.2.2	出世间·····	(162)
6.2.3	证实相·····	(163)
6.2.4	明自性·····	(165)
6.2.5	自由无碍·····	(168)
6.2.6	概观·····	(170)
6.3	向自然挑战·····	(177)
第七章	渐与顿·····	(179)
7.1	通往禅悟的路·····	(179)
7.2.1	渐修·····	(181)
7.2.2	达磨以前的渐修·····	(184)
7.2.3	楞伽宗的渐修·····	(186)
7.2.4	南宗与渐修·····	(189)
7.3.1	所谓顿·····	(192)
7.3.2	顿的底细·····	(198)
7.3.3	顿的果实·····	(200)
7.3.4	顿的得失·····	(203)
第八章	师徒之间·····	(206)
8.1	自了与度人·····	(206)
8.2	致知的老路·····	(209)
8.3	求顿悟的新路·····	(212)
8.3.1	授受的各种形式·····	(215)
8.3.2	宗风和家风·····	(221)
8.3.3	一些新程式·····	(223)
8.3.4	破执与传心·····	(226)
8.3.5	破和传的可能性·····	(230)
8.3.6	旦暮遇之·····	(235)
第九章	机锋公案·····	(237)
9.1.1	机锋和公案·····	(237)

9.1.2	设想的威力	(238)
9.1.3	旧的义解	(240)
9.1.4	可解的程度	(246)
9.2.1	机锋语的路数	(249)
9.2.2	有理和无理	(257)
9.3	多种动作的意义	(261)
9.4	效果的限度	(263)
第十章	禅悦和禅风	(265)
10.1	得道和望道	(265)
10.2	一种安乐	(266)
10.2.1	不改其乐	(269)
10.2.2	另一种面目	(271)
10.2.3	世事浮云	(272)
10.2.4	奇言异行	(274)
10.2.5	自由无碍	(275)
10.2.6	小机大用	(276)
10.2.7	禅境中往还	(277)
10.3	几句附加的话	(279)
第十一章	理想与实际	(282)
11.1	理想与实际有距离	(282)
11.1.1	禅与教	(283)
11.1.2	顿悟与惯熟	(285)
11.1.3	出世与家常	(286)
11.1.4	守身与随顺	(287)
11.1.5	新思与旧意	(289)
11.1.6	深度广度问题	(290)
11.2	补说	(291)
第十二章	可无的赘疣	(293)

12.1	应务本	(293)
12.2.1	生有异相	(295)
12.2.2	各种神通	(295)
12.2.3	超常的尊崇	(298)
12.2.4	预知死期	(299)
12.3	顺应世俗	(300)
12.3.1	近权贵	(300)
12.3.2	念故旧	(304)
12.3.3	重诗文	(305)
12.3.4	防微杜渐	(308)
第十三章	禅的影响 (上)	(309)
13.1	关于影响	(309)
13.2	道学	(311)
13.2.1	李翱复性	(312)
13.2.2	程朱理学	(314)
13.2.3	陆王心学	(317)
13.2.4	语录体	(319)
13.3	诗学	(322)
13.3.1	司空图诗品	(324)
13.3.2	诗与禅	(326)
13.3.3	沧浪诗话	(328)
13.3.4	神韵说	(331)
第十四章	禅的影响 (下)	(334)
14.1	立身处世	(334)
14.2.1	近禅与逃禅	(335)
14.2.2	正心修己	(338)
14.2.3	脱略世事	(340)
14.2.4	处逆如顺	(341)

14.2.5 山林气	(343)
14.3.1 禅意诗	(344)
14.3.2 禅意画	(348)
14.4 禅语	(350)
第十五章 余论	(354)
15.1 回顾既往	(354)
15.2 展望未来	(356)
《禅外说禅》读后记	启 功 (359)

佛教与中国文学

新版小记	(365)
前言	(367)
第一章 汉译的佛典文学	(371)
一、译文创造了独特的风格	(372)
二、佛典译文的文学成就	(374)
(一) 说理	(374)
(二) 叙事	(376)
(三) 故事	(378)
(四) 韵文	(381)
第二章 佛教与中国正统文学	(383)
一、诗	(384)
(一) 诗的格律	(384)
(二) 诗的语言	(388)
(三) 诗的内容	(389)
附说“词”	(393)
二、文	(394)

(一) 文的题材	(395)
(二) 文的思想	(398)
三、诗文评	(403)
第三章 佛教与中国俗文学	(412)
一、佛教的俗文学创作——变文	(412)
二、其他俗文学作品所受佛教的影响	(417)
(一) 传布方式	(417)
(二) 体裁	(419)
1. 小说	(420)
2. 鼓子词	(421)
3. 诸宫调	(421)
4. 宝卷	(422)
5. 弹词	(422)
6. 鼓词	(422)
(三) 题材	(424)
1. 题材直接来自佛教的	(424)
2. 题材间接来自佛教的	(426)
(四) 思想	(428)
1. 无常苦空	(429)
2. 地狱轮回	(430)
3. 因果报应	(431)
4. 修持得福	(432)
5. 多种神通	(434)
结束语	(436)

禅 外 说 禅

